

令和6年度 教育課程

明日香村立明日香幼稚園

1 明日香村教育委員会の目指す方向

明日香村教育委員会は、教育基本法をふまえ、「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな心身」を基盤に「自立して社会を生き抜く力」をもった子どもたちを育てることを目標として学校教育を推進している。

この「自立して社会を生き抜く力」は、さまざまな環境の変化に対応できるよう「郷土に誇りを持ち、自らの生き方を切り開くたくましい子どもの育成」、「夢に向かって力強く生きていく意欲ある人づくり」と捉え、子どもたちを育てる教育の基本理念とされている。

目指す子ども像

- ◎郷土を知り、郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、郷土を語れる子ども
- ◎夢に向かって、自らの生き方を切り開く意欲あるたくましい子ども

基本理念

- ◎郷土に誇りを持ち、自らの生き方を切り開くたくましい子どもの育成
- ◎夢に向かって力強く生きていく意欲ある人づくり

2 幼小中一貫教育の教育区分と本園の役割

本園はこの理念の下、村教育委員会が示す「明日香村幼小中一貫教育構想」の学校教育のプレ期に当たる3年間を担当する。

一貫教育と本園教育

教育区分と本園の教育

一貫教育の区分	プレ期	前期	中期	後期
学校教育区分	明日香幼稚園	明日香小学校	聖徳中学校	

プレ期の学びを素地に、小学校への接続がスムーズに進められるよう、明日香小学校、聖徳中学校との連携を密に進める。

3 明日香幼稚園の幼稚園教育目標と目指す子ども像

本園は幼小中一貫教育12年間のプレ期の3年間を担う。そこで、本園の教育目標と目指す子ども像を次のように設定する。

<幼稚園教育目標>

◎豊かな感性を育み、心身共にたくましく、主体的に生活する幼児を育成する。

- 元気に遊ぶ子ども
- 心豊かな子ども
- よく考えて最後まで頑張る子ども

<めざす子ども像>

- 思いやりのある優しい子
- 明るく前向きな子
- いつも元気で健康な子
- 自主性のある子

○ 責任感のある子

具体的な姿⇒生き生きと目が輝き、元気いっぱい遊ぶ子どもへ

4 本園の教育活動

幼小中一貫教育と明日香ならではの特色ある教育の推進

○確かな学力を育む

○豊かな人間性を育む

○健やかな心と体を育てる

(1) 主体的に遊び、生活する(生きる)力や学ぶ力を育む。

- ・「環境を通して行う教育」を基本とし、自発的に遊ぶ中で思考力・判断力・探求心の芽生えを培う。
- ・様々な活動や豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」、気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」、心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」の資質、能力を育むようにする。
- ・一人一人の子どもを理解し、その子らしさを大切にする。
- ・幼児の興味・関心を捉え、考えたり工夫したりして、主体的に遊びに取り組みるように教材を工夫するとともに、話を聞く習慣や表現する喜びを育てる。
- ・自立心を育て、家庭と連携しながら基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、基本的生活習慣(あいさつ、衣服の着脱、食事の仕方、排泄等)を身に付けさせ、一人一人に応じた援助をする。
- ・生活や遊びを通して、ルールやきまりを守る大切さに気づかせる。
- ・健やかなたくましい心と体を育てるために、様々な活動に親しみ、粘り強く取り組みながら体を動かす心地よさを味わわせる。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた指導を工夫する。
- ・絵本の読み聞かせの推進をする。

(2) 園や明日香村の自然を生かした活動の展開をする。

- ・自然の営みや季節の移り変わりを感じる機会を大切にする。
- ・身近な自然や明日香の社寺仏閣・文化等に触れて、思う存分遊ぶ経験の中で、感じたことを表現する力を育てる。
- ・明日香の自然の中で思い切り遊んで、楽しさを実感できるようにする。

(3) 人とかかわる力を育む。

- ・遊びの中で異年齢児や友達とかかわりを深め、愛情や信頼感を深めるようにする。
- ・地域の人や高齢者と触れ合う機会を取り入れ、思いやる気持ちや態度を養う。
- ・地域住民参加の開かれた園経営を行い、子どもたちの豊かな学びを創造する機会を拡げる。

(4) 豊かな感性を育み、表現力を身につける。

- ・心を動かす体験や活動を通して、感動したことを伝え合う楽しさを味わえるようにする。
- ・感じたこと、考えたことなどを様々な方法で表現する。
- ・生活の中で、美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ・絵本や物語などで、その内容と経験を結び付けたり想像力を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に感覚が養われるようにする。

(5) 一貫教育における「つきたい力」の育成

- ・12年間を見通した一貫教育に向けての取り組みや幼小中の連携の検証を行い、語彙力を高め、基礎的な言語力の育成をするとともに、主体的・対話的な深い学びに向けての取り組みを行う。
- ・確かな学力を育むために、主体的な遊びや生活を通して思考力や学習規律を身に付ける。
- ・幼児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図る。
- ・元気いっぱいの挨拶を推進し、様々な挨拶を身に付ける。
- ・明日香幼稚園がんだりっこ5つの約束の取組みを推進し、実践する。

5 指導の重点

(1) 教育課程の編成と実施

領域	年齢	指導の重点
健康	3	基本的な生活習慣を身に付け、安心感をもって行動する。
	4	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
	5	様々な活動を楽しみ、自分達の生活の場を整える。
人間関係	3	喜んで登園し、先生や友達に親しむ。
	4	身近な人とかかわり、遊ぶ楽しさを味わう。
	5	友達と協力しながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
環境	3	身近な物に触れて遊ぶ。
	4	自然に触れて、自然の変化や特徴に気付く。
	5	身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
言葉	3	自分の思いを言葉で話そうとする。
	4	いろいろな体験を通して、言葉を豊かに表現する。
	5	人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
表現	3	感じたこと考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
	4	生活の中で様々なことに興味・関心をもち、気付いたり楽しんだりする。
	5	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

(2) 体力向上に関する指導の重点

- ・進んで戸外で遊び、いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- ・学期ごとに明日香元気っ子リズムを位置づけるとともに、発達段階に応じた運動遊びを取り入れる。
- ・様々な運動遊びを通して体を動かす楽しさを味わわせ、継続的な取組の中で体力を身に付けさせる。
- ・運動能力の実施調査をし、実態を把握する。
- ・総合型地域スポーツクラブ（体操・サッカー・ボール投げ教室）と連携し、体力づくりの向上を図る。

(3) 食育に関する指導の重点

- ・発達段階や個人差に応じた給食指導を行う。
- ・食前の手洗い、挨拶、食事時の正しい姿勢、箸の持ち方、食後の歯磨きなどの習慣化を

図る。

- ・食大切さに気づき、進んで食べようとする気持ちを育て、健康な体づくりや集中力を身につける。
 - ・栽培活動を通して収穫の楽しさを味わいながら、食への関心を高める。
- (4) 生活指導に関する指導の重点
- ・家庭との連携を密に、園と家庭・地域が一体となり協力して指導にあたる。
 - ・集団としての躰をし、人としての善悪の区別を幼児なりに繰り返し理解させ、規範意識を身に付けさせる。
 - ・親しみをもって日常の挨拶を習慣化させる。
 - ・掃除の時間を位置づけ、自分達の生活の場を整えながら、有能感につなげる。
- (5) 安全教育に関する指導の重点
- ・スクールバス乗降のきまりや、ルールを身に付けさせる。
 - ・右側通行や横断歩道の一時停止、左右確認などの道路歩行に関する正しい理解と態度を身に付けさせる。
 - ・室内外の安全な遊びを考え、危険に対する判断力を育てる。
 - ・遊具のそれぞれの安全な使い方を身に付けさせる。
 - ・避難訓練や防犯教室などを通して、災害や事故、犯罪等の危険から身を守る意識や行動力を身に付けさせる。
- (6) 一貫教育に関する指導の重点
- ・「聞く・話す・読む(見る)・描く(表現する)」力を向上するとともに、生活語彙の獲得をさせる。(言語力の育成)
 - ・教師も一人の主体として幼児と遊びを創り、主体的な学び、対話的な学び、深い学びが実現できるような保育展開を図る。(共主体)
 - ・遊びや生活の中で、数量や文字などへの興味・関心、感覚を養う体験を取り入れる。
 - ・英語遊びを通して、異文化の興味・関心を高める。(英語活動の充実)
 - ・明日香の様々な自然や史跡などに触れて楽しむ。(郷土学習の充実)
 - ・箸の持ち方や鉛筆の持ち方の指導について、書く指導の基礎として家庭と連携しながら徹底する。
- (7) 人権教育に関する指導の重点
- ・自分や仲間を大切にし、発達段階を考慮した集団作りを目指す。
 - ・相手の立場や気持ちを考えて、友達と助け合い協力できる子どもに育てるため、「なかよし集会」を毎月1回行う。
 - ・身近な人との触れ合いを通して、他者を思いやる心や、感謝の気持ち、生命を大切にする心を育てる。
(地域コミュニティ・小・中学校)との交流
- (8) 特別支援教育に関する指導の重点
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、それぞれの発達の課題、支援内容を共有し、教育的支援を図る。
 - ・保護者や専門機関との連携を図ると共に、子どもが安心して過ごせる環境づくりや一人一人に応じた援助を行う。
 - ・園全体の協力体制を充実し、計画的、組織的に取り組む。
- (9) 明日香わらべ太鼓に関する指導の重点
- ・体を思いきり動かし友達と心を合わせて、太鼓を打つ喜びを育てる。
 - ・明日香わらべ太鼓を継承し、新しい明日香文化の創造を図る。
- (10) 幼稚園と小学校の接続に関する指導の重点

- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえた指導についての協議を通して、円滑な接続を図る。
 - ・教育内容や指導方法について合同研修や公開保育、オープンスクールなどを通して相互理解を深める。
- (11) 15時保育の充実
- ・午前中の総合保育と接続を図りながら、子どもにとって楽しい活動とゆとりのある時間を提供する。
 - ・学年、異年齢を通して、集団遊びやリズム遊びを取り入れ、体力・表現力・コミュニケーション力等を養う。
- (12) 地域の連携と一貫教育の推進
- ・地域の方々による支援活動を有効に活用し、教育活動の充実につなげる。
(地域コミュニティの推進)
 - ・地域の様々な資源を活用しつつ、多様な体験ができるようにする。
- (13) 家庭教育の推進
- ・家庭との連携を密にし、子育ての大切さや楽しさや情報を共有しながら家庭の教育力の向上を図る。
 - ・子どもの教育環境を最優先に考え、PTA役員との連携を図る。
- (14) 子育て支援の推進
- ・園庭開放及び3才児の預かり保育を行う。
 - ・子育てについて、学び合えるような場を提供する。
 - ・長期休業中の預かり保育の提供をする。

6 その他の配慮事項

- ・アレルギーをもつ子どもに配慮する。
- ・感性を高めるための研究開発(帝塚山大学との連携)を行う。
- ・明日香幼稚園ホームページにおいて、情報を提供する。
- ・ほしぞらようちえん(宿泊体験)を行う。(7月予定)
- ・タブレットを活用した保育の創造をする。(ICTの活用)
- ・ICTシステム(コドモン)を活用し、園と保護者のコミュニケーションを円滑にする。